【統計結果の概要】

令和５年の漁業産出額は、海面漁業においていわし類、海面養殖業においてのり類の価格が上昇したこと等から、前年に比べ831億円（5.3%）増加し、１兆6,578億円となった。

図１　漁業産出額の推移（全国）

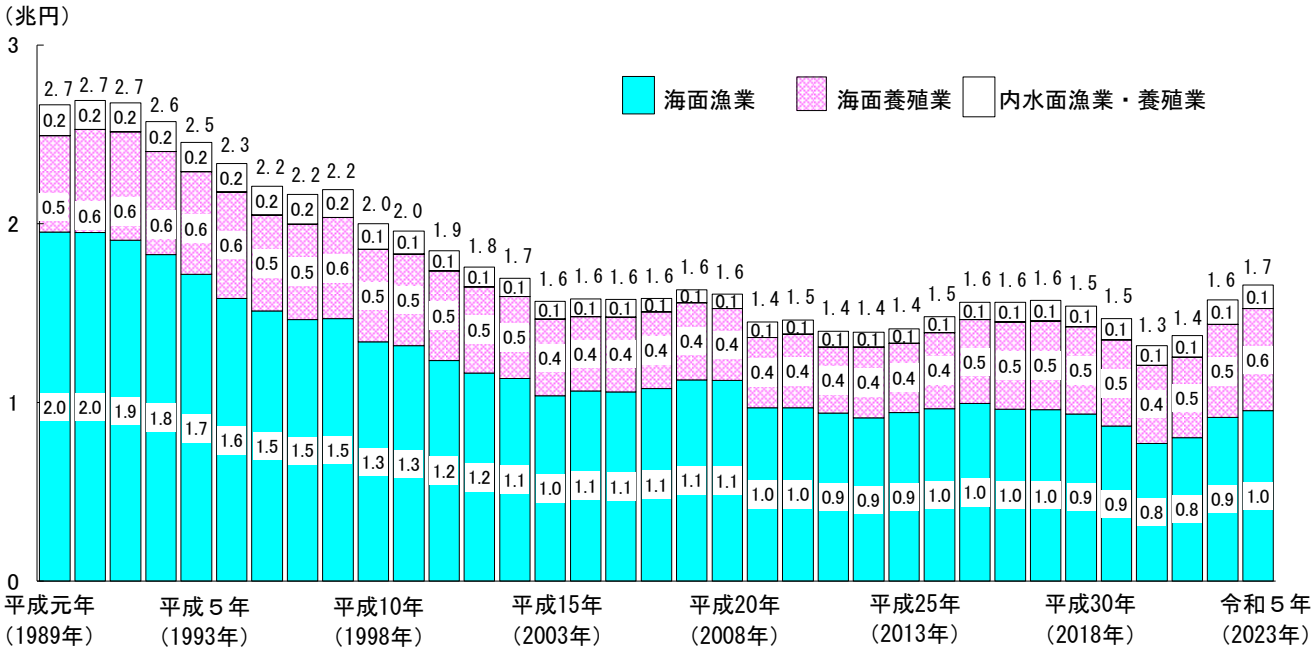
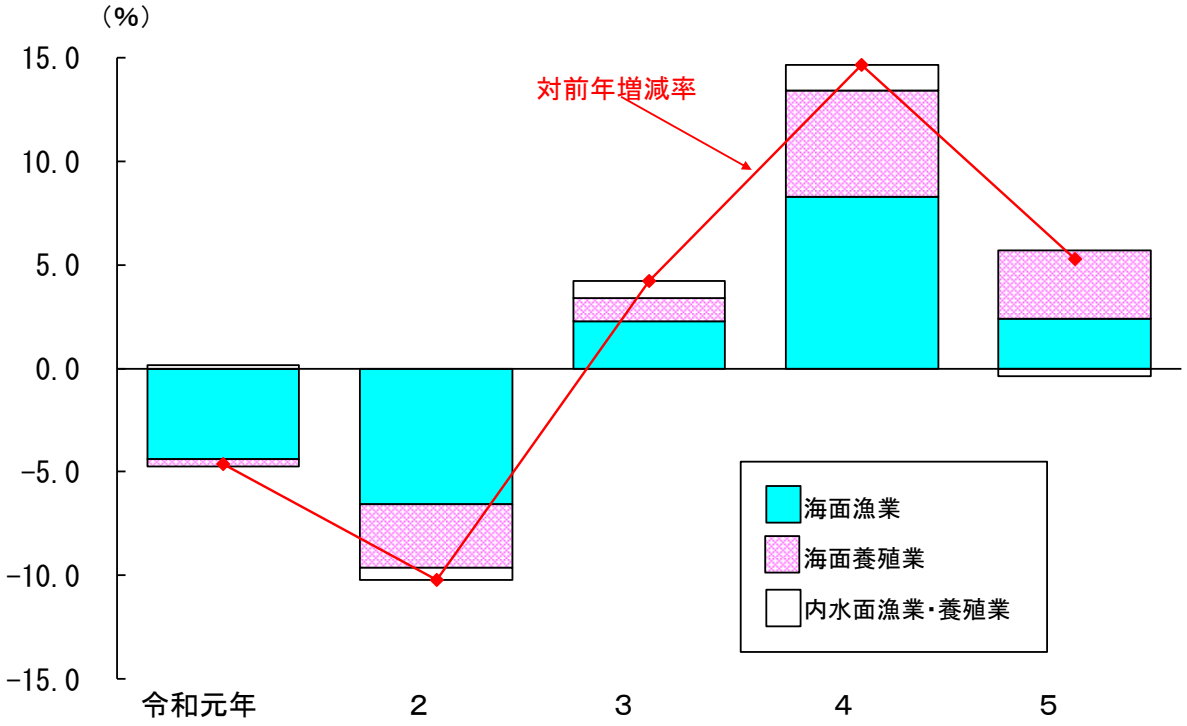


表１　漁業産出額（全国）

区　　分	令和４年	5		対前年増減率
		実数	構成割合	
	億円	億円	%	%
漁業産出額計	15,747	16,578	100.0	5.3
海面漁業	9,161	9,534	57.5	4.1
海面養殖業	5,211	5,731	34.6	10.0
内水面漁業	155	149	0.9	△ 3.9
内水面養殖業	1,219	1,163	7.0	△ 4.6

注：１　構成割合、対前年増減率は統計表の表章単位（百万円）で算出した数値である（以下同じ。）。
　　２　表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

図２　漁業産出額の対前年増減率と区分別寄与度の推移（全国）



【関連データ】

主要水産物の輸出額の推移

品目名	令和元年	2	3	4	5	
					実額	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
農林水産物 計	9,121	9,256	11,626	13,372	13,580	1.6
水産物 計	2,873	2,276	3,015	3,873	3,901	0.7
うちホタテ貝	522	360	720	1,079	899	△ 16.7
真珠(天然・養殖)	329	76	171	238	456	92.0
ぶり(活・生・蔵・凍)	(229)	(173)	(246)	363	417	15.2
かつお・まぐろ類(生・蔵・凍)	153	204	204	178	227	27.0
なまこ(調製)	208	181	155	184	169	△ 8.0
さば(生・蔵・凍)	206	204	220	188	122	△ 35.2
観賞用魚	47	49	60	64	68	7.1

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」
注：１　品目名は「令和５年農林水産物輸出入概況」の区分とした。
　　なお、ホタテ貝は、ホタテ貝(生・蔵・凍・塩・乾・くん)とホタテ貝(調製)の合計である。
　２　「ぶり」については、令和４年１月から集計対象範囲が「生鮮・冷蔵・冷凍」から「活魚」を含めた「活・生鮮・冷蔵・冷凍」に拡大したことから、過去の実績との単純比較ができないため、令和３年までの実績に（括弧）を付している。
　３　金額は、ＦＯＢ価格（Free on board、運賃・保険料を含まない価格）である。
　４　対前年増減率は、原数値（千円）で算出した数値である。

【統計結果】

1　海面漁業

海面漁業の産出額は、海洋環境の変化等によりさんま、するめいか、さけ類等の漁獲量が減少していること等から、減少傾向で推移してきたが、令和３年以降は、ほたてがいにおける輸出需要の増加や、輸入水産物価格高騰により、多くの魚種で価格が上昇したこと等により増加してきた。

令和５年は、前年に比べ 373 億円（4.1%）増加し、9,534 億円となった。

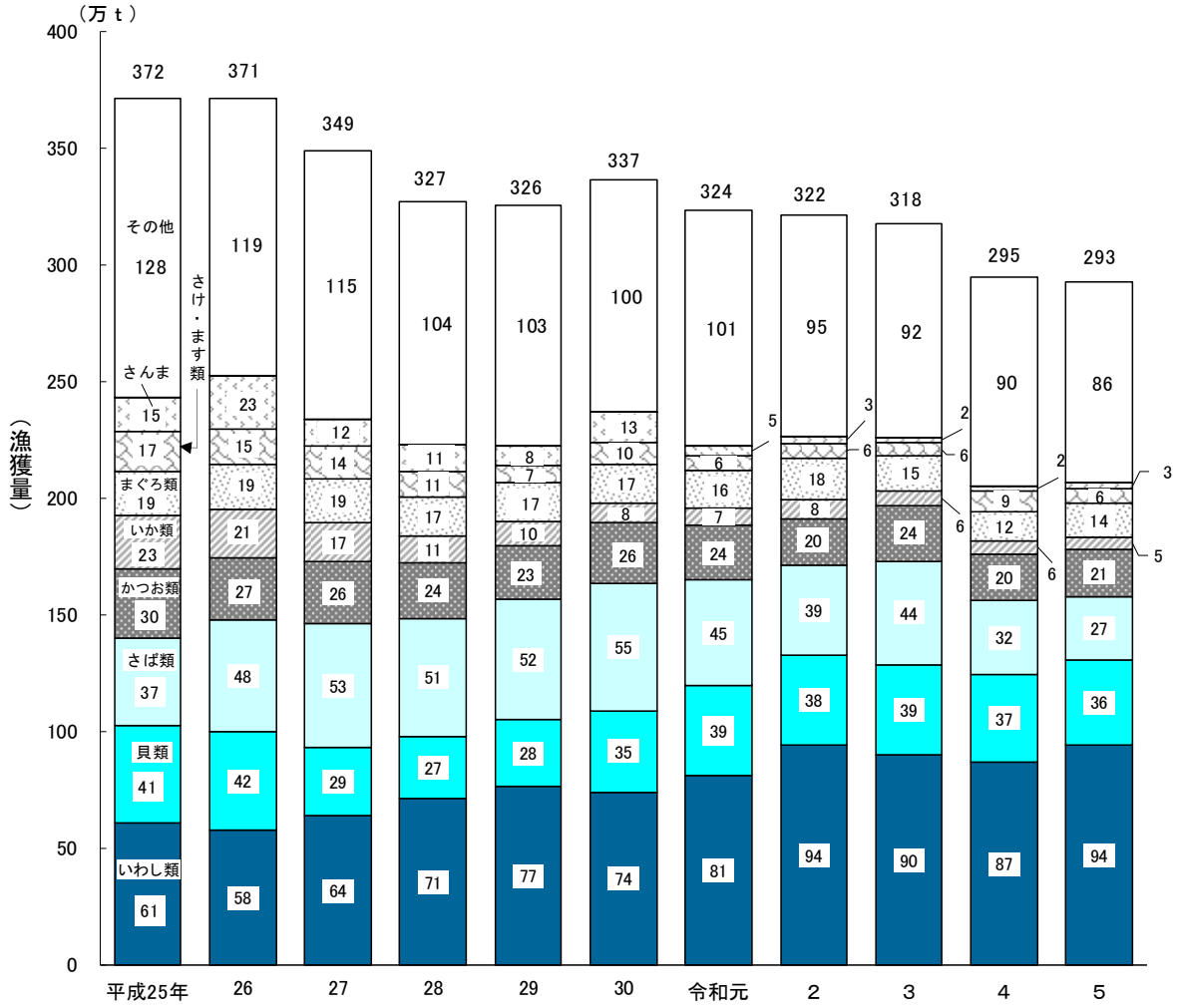
これは、世界的な魚粉価格の高騰等によりいわし類の価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表２　海面漁業の産出額の推移（全国）

区　　分	単位	令和元年	2	3	4	5
実　　額	億円	8,693	7,725	8,023	9,161	9,534
対前年増減率	%	△ 7.2	△ 11.1	3.9	14.2	4.1

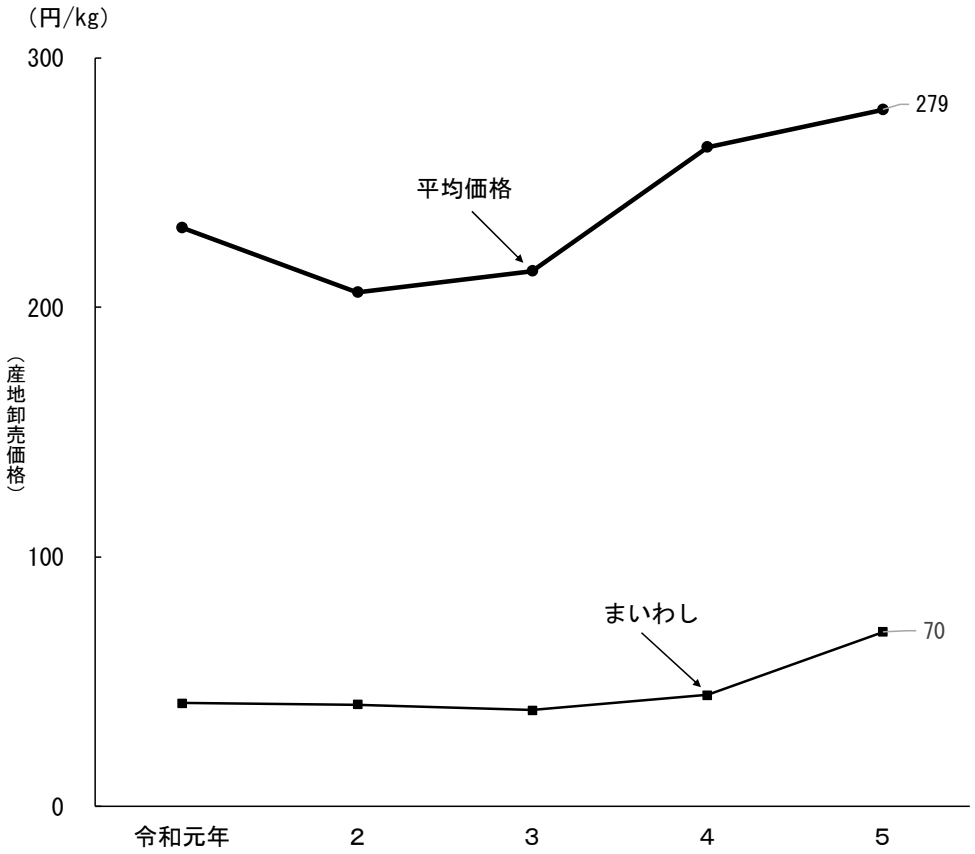
【関連データ】

1　海面漁業の漁獲量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

２　海面漁業における主要魚種の価格の推移（全国）



資料：水産庁「産地水産物流通調査」

２　海面養殖業

海面養殖業の産出額は、令和２年に新型コロナウイルス感染症の影響による価格の低下等により大きく減少したが、令和３年以降は、はまち等のぶり類、まだい、ほたてがい等の需要の回復による価格の上昇等により増加してきた。

令和５年は、前年に比べ 520 億円（10.0%）増加し、5,731 億円となった。

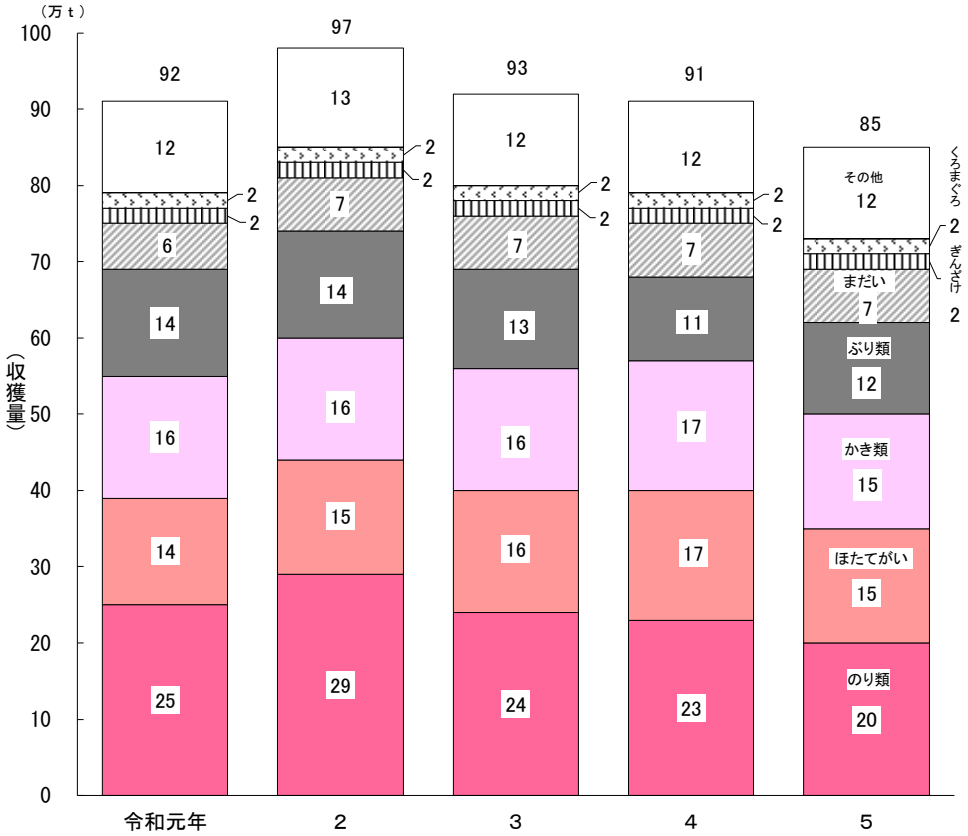
これは、のり類において、天候不順や赤潮（珪藻類）の多発による収獲量の減少に伴い価格が上昇し、のり類の産出額が増加したこと等によるものと考えられる。

表３　海面養殖業の産出額の推移（全国）

区　　分	単位	令和元年	2	3	4	5
実　　額	億円	4,802	4,357	4,505	5,211	5,731
対前年増減率	%	△ 1.2	△ 9.3	3.4	15.7	10.0

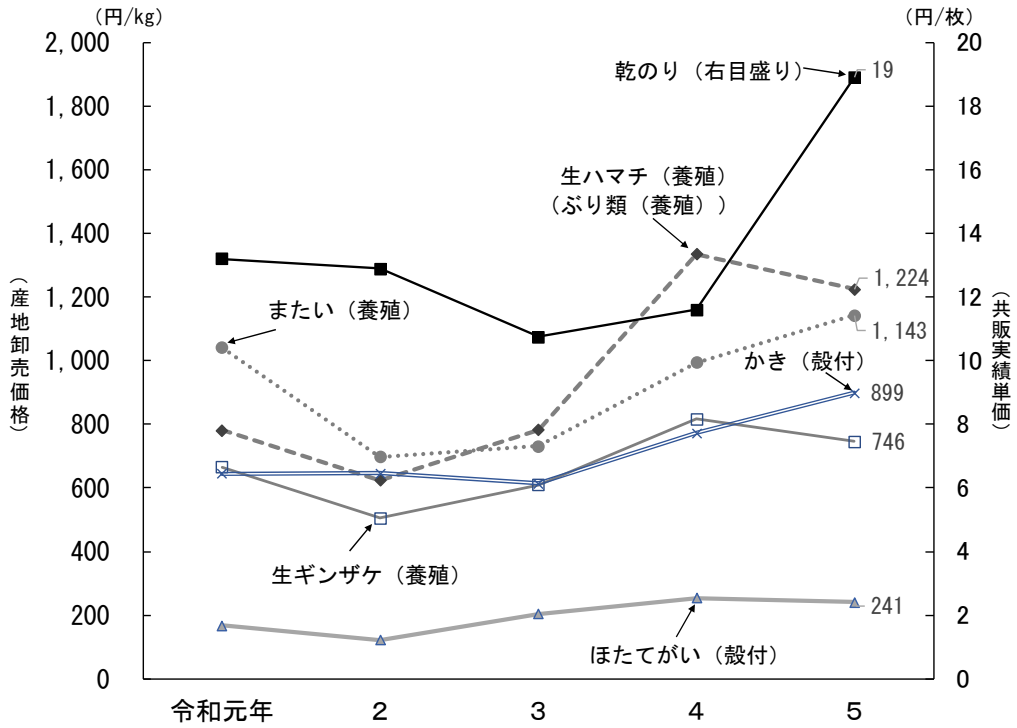
【関連データ】

1　海面養殖業の収獲量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

2　海面養殖業における主要魚種の価格の推移（全国）



資料：（一社）漁業情報サービスセンター調べ、全国漁連のり事業推進協議会調べ、水産庁「産地水産物流通調査」及び東京都中央卸売市場「市場統計情報（月報・年報）」

注：1　乾のりの共販実績単価は、全国漁連のり事業推進協議会の共販実績（数量・価格）を用いて、農林水産省において年平均単価（1月～12月）として再集計した結果である。

2　生ハマチ（養殖）（ぶり類（養殖））及び生ギンザケ（養殖）の産地卸売価格は、（一社）漁業情報サービスセンター調べ、またい（養殖）の産地卸売価格は、東京都中央卸売市場「市場統計情報（月報・年報）」結果、かき（殻付）及びほたてがい（殻付）の産地卸売価格は、「産地水産物流通調査」結果である。

3　ほたてがい（殻付）の価格は、海面漁業を含んだ価格である。

３　内水面養殖業

内水面養殖業の産出額は、シラスウナギの取引価格が高水準で推移したことにより、うなぎの価格が高水準で推移していたこと等から、平成 29 年以降、1,000 億円前後で推移してきた。

令和５年は、前年に比べ 56 億円（4.6%）減少し、1,163 億円となった。

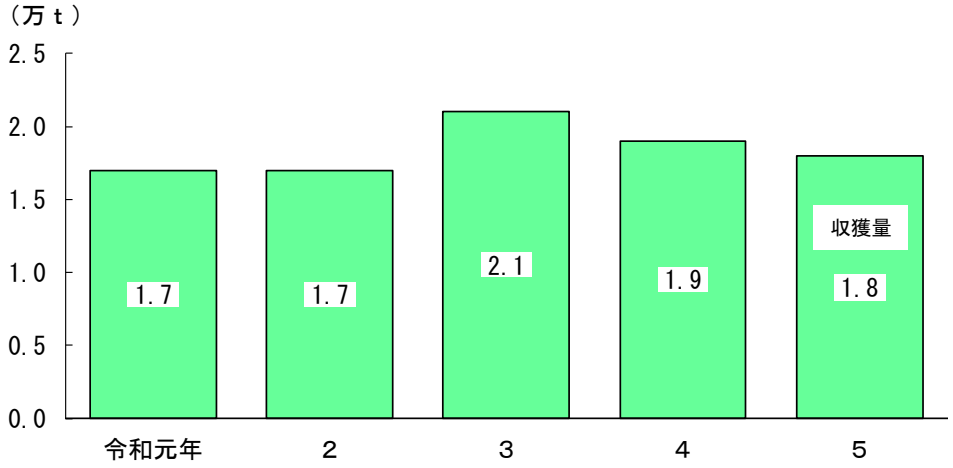
これは、シラスウナギの取引価格が高騰したことによりうなぎの価格は上昇したものの、収獲量が減少したことが影響し、うなぎの産出額が減少したこと等によるものと考えられる。

表４　内水面養殖業の産出額の推移（全国）

区　　分	単位	令和元年	2	3	4	5
実　　額	億円	1,027	935	1,056	1,219	1,163
対前年増減率	%	4.5	△ 8.9	13.0	15.4	△ 4.6

【関連データ】

うなぎの収獲量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

４　生産漁業所得

令和５年の生産漁業所得は、前年に比べ 335 億円（4.6%）増加し、7,699 億円となった。

これは、海面漁業及び海面養殖業の産出額が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

表５　生産漁業所得の推移（全国）

区　　分	単位	令和元年	2	3	4	5
実　　額	億円	7,167	6,398	6,856	7,364	7,699
対前年増減率	%	△ 9.9	△ 10.7	7.1	7.4	4.6

5　都道府県別海面漁業・養殖業産出額

令和５年における海面漁業・養殖業産出額の上位５都道府県は、北海道が 2,836 億円（対前年増減率 9.5%減少）、長崎県が 1,238 億円（同 11.7%増加）、愛媛県が 1,086 億円（同 10.9%増加）、宮城県が 888 億円（同 3.7%減少）、鹿児島県が 768 億円（同 0.3%減少）の順となった。

表６　上位５都道府県の海面漁業・養殖業産出額の推移

区　分	令和元年	2	3	4	5	
					実額	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
全　国	13,478	12,062	12,507	14,347	15,241	6.2
うち北海道	2,307	2,021	2,569	3,135	2,836	△ 9.5
長　崎	1,013	892	936	1,109	1,238	11.7
愛　媛	865	753	850	979	1,086	10.9
宮　城	834	720	655	922	888	△ 3.7
鹿児島	760	646	658	770	768	△ 0.3

注：１　令和５年の都道府県別海面漁業・養殖業産出額の上位５都道府県について表章した。
　　２　全国及び都道府県別海面漁業・養殖業産出額には、捕鯨業（くじら類）の産出額を含まない。

図３　上位５都道府県の海面漁業・養殖業産出額の魚種別構成割合

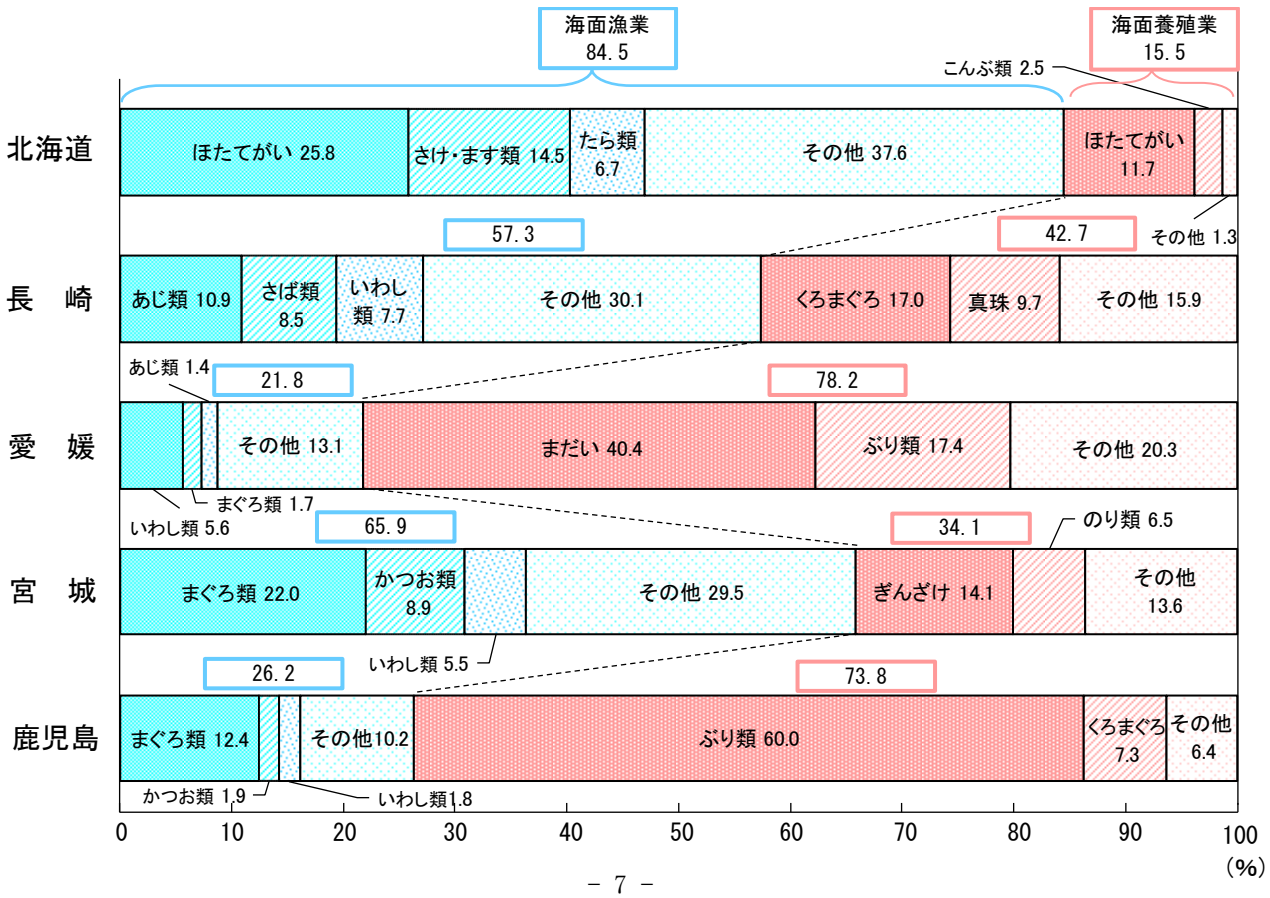
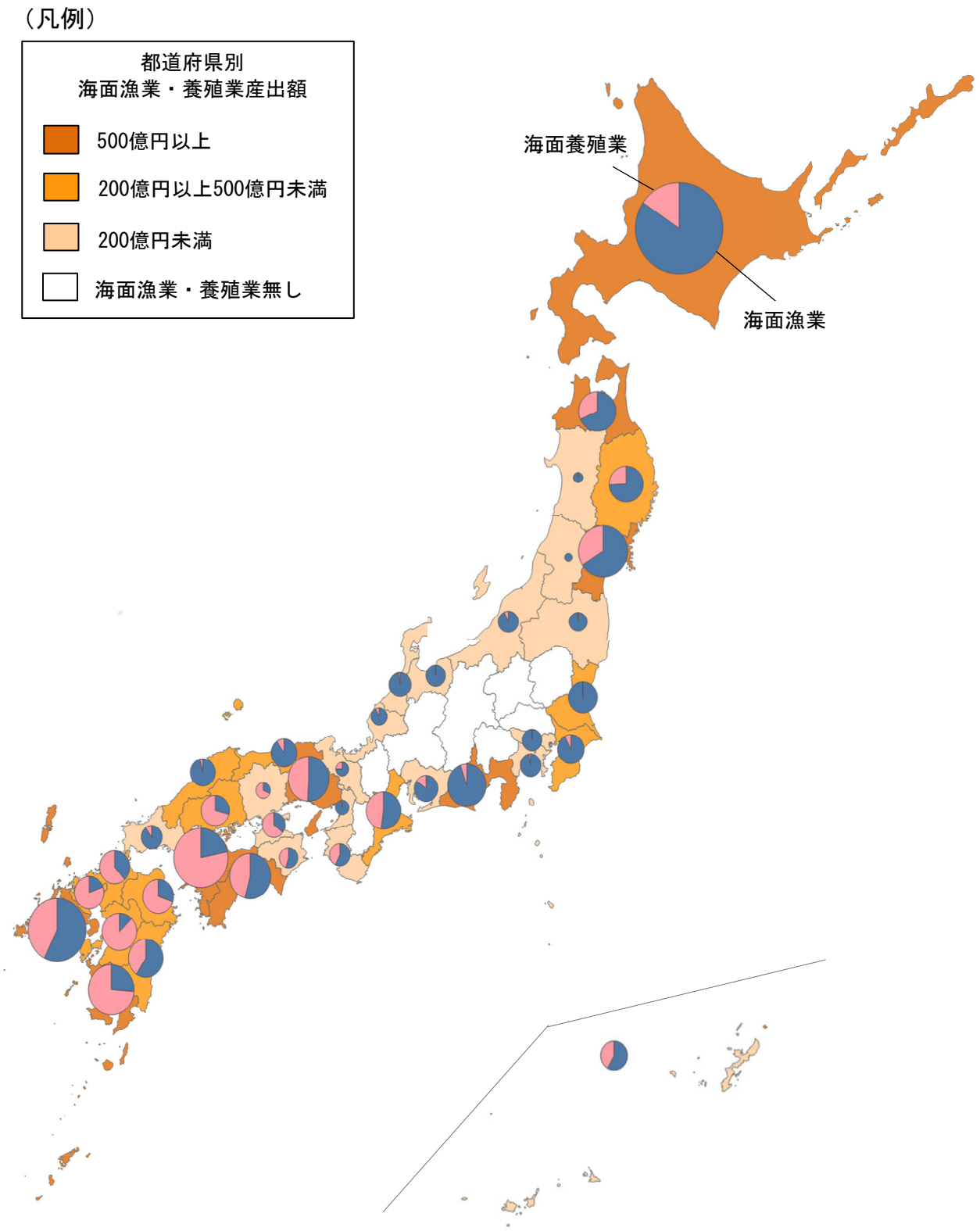


図４　都道府県別海面漁業・養殖業産出額及び構成割合



注：都道府県ごとの円グラフの大きさは、漁業産出額（実額）を表している。